

男声版『歌え若人』が中学生用合唱曲集に掲載

新居正雄(1979年卒団)

勤務先 北海道音更高等学校

東北大学男声合唱団50周年おめでとうございます。

「50年史編集委員会」の勧めで、『歌え若人』の訳詩について昨年(2002年)の音楽之友社とのやりとり等を紹介させていただきます。

事の始まりは、音楽之友社『クラス合唱曲集 ニューヒットコーラス パール版』(1999年4月30日第3刷)です。我が子の中学校では文化祭でクラス合唱コンクールを行っており、学校では同書を全員に持たせ、音楽の授業や合唱コンクールに活用しています。長男は現在高二ですが、中二・中三の時合唱コンクールで指揮をしたこともあり、そのとき使っていた同書を家に持ち帰り、私もその中の曲をよく見ていました。その中に『楽しき歌声』というタイトルで、まさしく東北男声愛合唱曲集『ハーモニー』の『歌え若人』と同じ歌詞が載っていましたが、作曲はグラナハム、訳詞は藤井泰一郎となっております。

男声版『ハーモニー』ではもちろん『歌え若人』の作詞は仁科博之氏(男声初代学生指揮者)となっております。じつは私が男声に在団中の1976年に、仁科博之氏が校長先生をされていた矢本高校へおじゃましたことがあり、そのときに『歌え若人』も演奏しました。演奏終了後の先生方との交流の場で、仁科校長が『歌え若人』の歌詞について「当時は終戦間もない(1950年頃)時であり、厭戦感情もあって『いざ起て…』はなじまなかった。歌詞の『公孫樹の木陰』は片平キャンパスの公孫樹をイメージした。」と作詞の経緯をお話しされたこともうっすらと覚えていました。

いうまでもなく一般に知られているのは、訳詞藤井泰一郎による『いざ起て戦人よ』の歌詞ですが、同書では歌詞と作詞者がくいちがっていたので、思い切って音楽之友社に問い合わせのメールを送ってみました。するとすぐに下記のような返信がありました。(音友社とのやりとりで『楽しき歌声』を使いましたので、以下『楽しき歌声』と記します)。

第1信(2002年2月下旬)

「ニューヒットコーラス パール版」に掲載されている『楽しき歌声』の作詞者に関するメールを拝見いたしました。ただいま調査中ですが、現状をご報告させていただきます。ご指摘のように、『いざ起て戦人よ』というタイトル、歌い出しの藤井泰一郎氏の訳詞が一般的に知られているようです。

編集者が、『いざ起て戦人よ』という言い回しが今の中学生には馴染まないのではないかと考え、他の訳詩を探したところある曲集に「ニューヒットコーラス パール版」に収録

した楽譜が掲載されていたため、これを採用した、という経緯のようです。編集者、社内の担当者いずれも、仁科博之氏の存在を知らなかったと思われます。今、元になった曲集の現物を探すと共に、さらに詳しい事情を調査しております。もう少しお時間をちょうだいしたいと考えます。わかり次第ご連絡を差し上げたいと存じます。

第2信（2002年 月）

「ニューヒットコーラス パール版」掲載の『楽しき歌声』の作詞者に関してその後、分かりましたことをご報告いたします。

編集者が、『いざ起て戦人よ』という言葉が中学生には馴染まないと考え、他の訳詩がないか探していたところ、玉川学園編「混声合唱アルバム 中学校用」(玉川大学出版部発行、89年初版)に「ニューヒットコーラス」で採用したものと同一楽譜が掲載されておりました。こちらの歌詞のほうが中学生にふさわしいと判断し、これを採用した、ということです。今、手元に玉川学園編「混声合唱アルバム 中学校用」がありますが、確かに「ニューヒットコーラス」掲載のものと同じです。

編集者、社内の担当者いずれも、仁科博之氏の存在を存じ上げず玉川学園編を信用し、掲載した次第です。これ以上の詳しいことは当社ではわかりませんので、恐縮ですが玉川学園にお尋ねください。(以下省略)

そこで私も玉川大学出版部にも問い合わせのメールを送ってみましたが、『楽しき歌声』採用の経緯は不明(その時点でその曲の掲載そのものをやめていた)、という返信でした。しかし、私の手元にその楽譜もなく、東北大学男声合唱団のOBの歌詞が中学生用合唱曲集に堂々と掲載されることになったことを素直に喜び、それ以上玉川大学出版部への追求はしませんでした。

しばらくしてから、たしか2002年8月下旬頃だと思いましたが、仁科氏から私に「音楽之友社から連絡がありました」とお礼の電話をいただき、作詞の経緯についても改めてお話を聞くことができました。おそらく今年の春に各学校で採用される『ニューヒットコーラス』には『楽しき歌声』が「作詞 仁科博之」と掲載されているはずで

私は特に50周年を意識して行動を起こしたわけではなかったのですが、今回のことで50周年に一つ的话题を提供できたことを嬉しく思っています。

最後に、現役生諸君には、歌を一生の財産にすることができるようご活躍することを期待申し上げますとともに、男声OBの皆様の健康とメモリアルズやそれぞれの合唱活動でますますご活躍されることをお祈り申し上げます。